

令和4(2022)年度 定期公開講座

全体テーマ： 人と文化の諸相 <small>アспект</small>			
講義	日時	講座演題	講師
第1回	9月30日 (金) 18時30分 ～ 20時00分	開講あいさつ	竹野 茂 地域研究センター長
		歴史・物語・デジャヴ — “いま” 振り返る近代日本の中国体験 —	宮崎公立大学 教授 田宮 昌子
第2回	10月7日 (金) 18時30分 ～ 20時00分	大江健三郎『ヒロシマ・ノート』と原爆体験	宮崎公立大学 准教授 楠田 剛士
第3回	10月14日 (金) 18時30分 ～ 20時00分	“Condition of England Novel” を読む — 十九世紀イギリスの社会問題の普遍性 —	宮崎公立大学 准教授 村上 幸一郎
第4回	10月28日 (金) 18時30分 ～ 20時00分	疫病なんか吹き飛ばせ！ — 民衆の創造性 —	宮崎公立大学 教授 永松 敦
		閉講あいさつ	竹野 茂 地域研究センター長

宮崎公立大学 定期公開講座 (第1回講座 / 全4回)

実施日時	令和4年9月30日(金) 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	38名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 教授 田宮 昌子	歴史・物語・デジャヴ — “いま” 振り返る近代日本の中国体験 —

【講座内容】

今年度の公開講座のテーマについて検討が始まった頃、世界はウクライナ紛争勃発の衝撃の中にあった。国際文化学科を主軸とする本学に地域の皆さまが期待されるであろうことに言語・文化専攻の講師陣でどう応えるかという議論の中で思いがけなく講師として私にも声が掛った。私は本学では中国の言語と文化を教授しており、漢文化を中心とした中国の「文の伝統」を主な研究領域としている。国際紛争など門外漢の私に白羽の矢が立ったのは、かつて日中戦争に従軍した親族の遺品を、主に山西省従軍期の写真を中心に、日中双方での裏付け調査を加えて公開したことがあったためのものである（『「北支」占領その実相の断片』社会評論社、2015年）。そこで、今回は当該書を基盤としながら、日本近代が中国と持ってきた関係をも振り返りつつ、今日感じる既視感についても考える場としてみたい。

【受講者感想 ※アンケートから抜粋】

- ・ 中国大陸での日中戦争の内容が細かく説明があり、従軍された人々の話をわかりやすく講座内で色付けが見やすく勉強になりました。
- ・ 槇峰事件に関わっていた人たちに話を聞いたことがあるので興味深く聞きました。
- ・ 今まで知らなかった戦時中の実際の状況を様々な資料を通して知ることができて良かった。
- ・ これまで本や映像でしか理解してなかった中国の戦時的日常が知られ良かった。
- ・ 中国で体験されたことを今後も伝えていっていただければ良いと考えます。



宮崎公立大学 定期公開講座 (第2回講座 / 全4回)	
実施日時	令和4年10月7日(金) 18時30分~20時00分
会場	宮崎公立大学 103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	30名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 准教授 楠田 剛士	大江健三郎『ヒロシマ・ノート』と原爆体験
<p>【講座内容】 大江健三郎(1935-)は、1957年のデビュー以来多くの小説を発表し注目されてきた、戦後日本文学を代表する作家です。芥川賞受賞作の「飼育」、知的障害をもって生まれた子供とのかかわりを描く「個人的な体験」などの小説や、1994年にノーベル文学賞を受賞したことなどが知られていますが、小説以外にもエッセイ、旅行記、文学論も多く著わしてきました。なかでも被爆地広島取材した『ヒロシマ・ノート』(岩波新書、1965)は増刷を重ね、近年でも電子化や改版など新しい読書の場がつけられています。1960年代当時の政治や社会を背景に書かれていますが、発表後60年近く経っても被爆者の抱える問題や核兵器の脅威は解決していません。講座ではウクライナ原発やコロナ禍などの現代の情勢とも重ねながら、『ヒロシマ・ノート』が描く原爆体験の諸相をお話したいと思います。</p>	
<p>【受講者感想 ※アンケートから抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組合活動の一環で今年の8月6日に広島に赴きました。あの時自身が感じたことを補完するという意味で本講義に参加しました。大変満足のいく講義であったことは言うまでもありません。実際に現地に赴く以外にもヒロシマのことを知るきっかけを教えていただいたように感じます。 ・私たちが大江に親しみが深まらないのは日本人、日本社会の曖昧さと論理的な意向の違いを克服できない課題を自覚せずには大江を理解できないと感じた。 ・名前は何度もきいて知っていましたが、実際に読んだことはなかったので、今回はとても勉強になりました。原爆について関心があるので、ぜひ読んでみたいと思いました。 	
	

宮崎公立大学 定期公開講座 (第3回講座 / 全4回)

実施日時	令和4年10月14日(金) 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	38名
配付資料等	各講座資料等

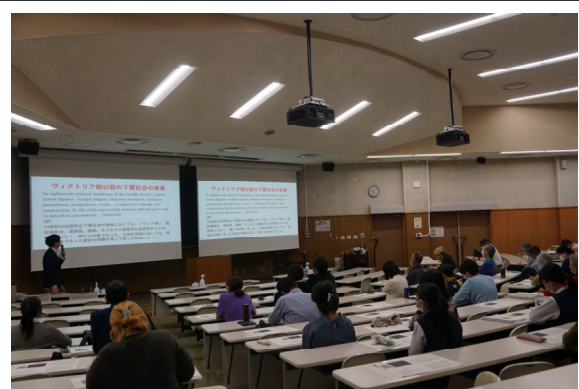
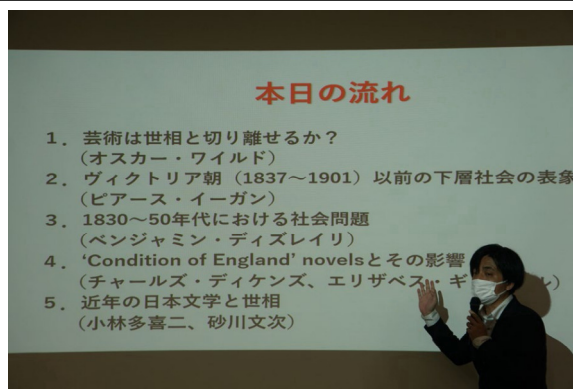
担当講師	演 題
宮崎公立大学 准教授 村上 幸太郎	“Condition of England Novel”を読む — 十九世紀イギリスの社会問題の普遍性 —

【講座内容】

ヴィクトリア女王の統治する十九世紀イギリスは産業の発展により世界一の繁栄を誇った時代ではありますが、同時に公害や格差問題など、多くの社会問題が生じた時期でもありました。現在 Condition of England Novel と分類される小説はこれらの社会問題の深刻さを訴え、社会の改善を実現しようとする作品です。今回の講座ではチャールズ・ディケンズの『ハード・タイムズ』やエリザベス・ギaskellの『北と南』などを中心に概観し、ヴィクトリア朝の文学は浮世離れしたものではなく、現実の問題と不可分であったこと、そして小説でテーマとなる諸問題は現代の日本が抱える問題に通底するものがあることなどを考えてみたいと思っています。

【受講者感想 ※アンケートから抜粋】

- ・講座を聴くことで、文学の奥深さに気づかされた。その時代の背景を理解することでその作品の理解度が全く違ったものになったと思った。19世紀の文学と思って来たが普遍的なものだと感じた。
- ・現代社会の問題は昔の歴史や作品から学び解決できる部分があるのだと知った。英文の小説はハードルが高いと感じたので、ブラックボックスなど現代の小説から読んで関心を深めていきたい。
- ・いろいろな文学作品の一節を紹介頂き文学から社会の問題を見通すその時代の人々の偏見や教え方を知る面白さを教えて頂きました。
- ・90分の時間で上手に説明していただきました。こういう機会がないと、19世紀イギリス文学を学ぶ機会はないでしょうね。



宮崎公立大学 定期公開講座 (第4回講座 / 全4回)

実施日時	令和4年10月28日(金) 18時30分~20時00分
会場	宮崎公立大学 130大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	24名
配付資料等	各講座資料等

担当講師	演 題
宮崎公立大学 教授 永松 敦	疫病なんか吹き飛ばせ！ — 民衆の創造性 —

【講座内容】

今、コロナ禍において、自由に行動ができず、様々なイベントが中止、あるいは縮小され、快樂の機会が少ない状態が何年も続いています。でも、長い時間軸で見た場合、本当に民衆は今のように行動を制限し、何も活動できない状態でしたのでしょうか？京都の祇園祭りや博多祇園など、あのド派手な祭礼は病氣平癒を願って生み出された行事でした。幕末に流行したコレラのときも、疫病と戦いながら、生活の楽しみを生み出し、お互いを励まし合ってきたのです。どんなに困難な時代にあっても、民衆を生きる希望を捨てなかった。そのたくましさを「遊び」を通してみていくことにいたしましょう。

【受講者感想 ※アンケートから抜粋】

- ・地元のことも全く知らないことばかりでした。とても興味があるので今度調べてみたいと思いました。
- ・宮崎市に移り住んで1年です。今日のお話をきいて、なんだかステキな場所に住んでいるんだという気持ちになり感謝です。
- ・文化財や歴史に関心があり学生時代には奈良におりました。久々に「宮崎」に対するワクワクが湧きました。
- ・民族学はとても興味深くておもしろいと感じました。宮崎に住んでいて長いですが、知らないことばかりでした。「かや」の話は興味深かったです。



令和4年度 宮崎公立大学 定期公開講座

受講料
無料



MIYAZAKI
Municipal University

アспект

人と文化の諸相

広く地域に開かれた大学として、生涯学習の振興及び文化の向上に貢献することを目的に、公開講座を開講します。
今年度は言語・文化専攻所属の教員が講師となり全4回の講座を実施します。
この機会に本学の講座を体験してみませんか？

【担当講師】

- | | | |
|-----|--------|---------------|
| 第1回 | 田宮 昌子 | 宮崎公立大学
教授 |
| 第2回 | 楠田 剛士 | 宮崎公立大学
准教授 |
| 第3回 | 村上 幸太郎 | 宮崎公立大学
准教授 |
| 第4回 | 永松 敦 | 宮崎公立大学
教授 |

【日程】

令和4年度 9月30日～10月28日
全4回・毎週金曜日（10月21日は除く）

【時間】

18時30分～20時

【会場】

宮崎公立大学 103大講義室

【定員】

100名（事前予約制）

宮崎公立大学

詳しくは裏面または
ウェブサイトをご覧ください。



注意事項

- ※ 新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、オンライン（Zoom）となる可能性があります。予めご了承ください。
- ※ お申込み受付後、特にご連絡は致しませんので、当日会場にお越しください。但し、オンライン（Zoom）実施となる場合は、事前に宮崎公立大学地域研究センターよりメールにてご連絡いたします。
- ※ 新型コロナウイルス感染防止対策のため、事前予約制といたします。ご来場の際はマスク着用をお願いいたします。ご予約のない方の当日受け付けはいたしませんので、予めご了承ください。

令和4年度 宮崎公立大学 定期公開講座

アспект
人と文化の諸相：各日程のテーマ・講師

第1回
9/30
(金)

歴史・物語・デジャヴ
－“いま”振り返る近代日本の中国体験－
宮崎公立大学 教授 田宮 昌子

第2回
10/7
(金)

大江健三郎『ヒロシマ・ノート』と原爆体験
宮崎公立大学 准教授 楠田 剛士

第3回
10/14
(金)

“Condition of England Novel”を読む
－十九世紀イギリスの社会問題の普遍性－
宮崎公立大学 准教授 村上 幸太郎

第4回
10/28
(金)

疫病なんか吹き飛ばせ！
－民衆の創造性－
宮崎公立大学 教授 永松 敦

申込方法

(講座期間中も受け付けいたします。1講座だけの受講も可能です。)

郵便・FAX・メールのいずれかの方法で、
以下の事項を宮崎公立大学地域センター宛、お申込みください。

- ①受講希望日 ②氏名(ふりがな) ③住所
④連絡が取れる電話番号 ⑤メールアドレス



注意事項

- ※ 新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、オンライン (Zoom) となる可能性があります。予めご了承ください。
- ※ お申込み受付後、特にご連絡は致しませんので、当日会場にお越しください。但し、オンライン (Zoom) 実施となる場合は、事前に宮崎公立大学地域研究センターよりメールにてご連絡いたします。
- ※ 新型コロナウイルス感染防止対策のため、事前予約制といたします。ご来場の際はマスク着用をお願いいたします。ご予約のない方の当日受け付けはいたしませんので、予めご了承ください。

お申込み・お問合せ先

宮崎公立大学地域研究センター

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58 凌雲会館2階

TEL : 0985-20-4772 FAX : 0985-20-4773

メール : mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp

受付時間 : 平日9:00~17:00

